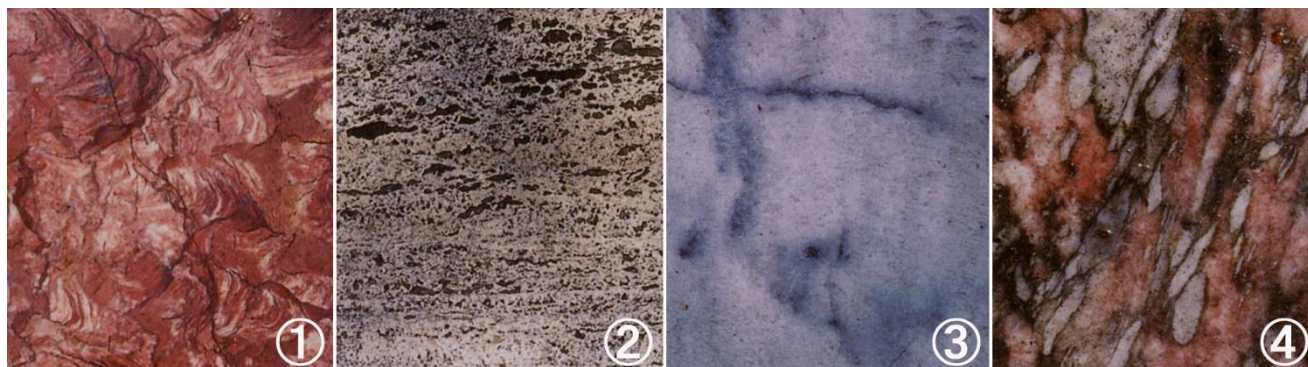


町中で石材として使われている石灰岩の仲間

街中のビルの壁や路上には磨かれたいろいろな石灰岩の仲間が、花こう岩などとともに石材として広く使われています。石灰岩の仲間には、海中の炭酸カルシウムの生物遺骸のたい積などの生命活動でできた普通の石灰岩、生命活動とは無関係に地下水の炭酸カルシウム分が沈殿してできたトラバーチン、一度できた石灰岩が地下深部の熱や圧力の作用で変成してできた大理石（結晶質石灰岩）などがあります。現在では石材としての石灰岩の仲間の大部分は外国から輸入されています。

下の写真①は中国産の17億年前という非常に古い地質時代（先カンブリア時代）の石灰岩で全体に渦巻き模様があり暗い赤色で、この模様は当時の海中のシアノバクテリアという微生物の活動でできました。写真②はイタリアのトラバーチンで石材名で「ロマーノトラバーチン」といい、全体にクリーム色で、長さ1～2cm程度の穴がたくさんあります。写真③は純白色の地に不規則な灰黒色の模様が入っているイタリアの大理石で石材名で「カララビアンコ」といい、石材として非常に多く見かけます。写真④はノルウェーの大理石で石材名で「ノルウェー جانローズ」といい淡紅色の地に引き伸ばされたような白い部分が見られます。

岡山市の西川緑道公園の路上には花こう岩の石材とともにこれらの石灰岩の仲間の石材が多く使われています。石材が濡れている雨の日が観察しやすいでしょう。



写真：①中国産の石灰岩、②イタリア産のトラバーチン「ロマーノトラバーチン」、③イタリア産の大理石「カララビアンコ」、④ノルウェー産の大理石「ノルウェー ジャンローズ」

武智泰史(地学担当)

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp



「パオちゃん's EYE」
は博物館ホームページでカラーで見られるよ！

